

体の拡大による高次元周期再帰方程式の生成

株式会社ブレインパッド
弓林 司 (Tsukasa YUMIBAYASHI)

概要

n 周期再帰方程式とは任意の初期点が n 周期点であるような漸化式である。本発表では任意の n 周期的再帰方程式を基に“体の拡大”を用いて高次元 n 周期再帰方程式を (無限個) 生成する方法について紹介する。

1 導入

n 周期再帰方程式 (Periodic Recurrence Equation; PRE)[1, 2] は任意の初期点が n 周期点であるような漸化式である*¹ :

$$\mathbf{F} : \mathbb{K}^d \rightarrow \mathbb{K}^d \text{ is PRE of period } n \Leftrightarrow \forall \mathbf{x} \in \mathbb{K}^d, \mathbf{x} = \mathbf{F}^{(n)}(\mathbf{x}) \quad (1)$$

1 次元 2 周期再帰方程式の例

$$x^{(n+1)} = \frac{a}{x^{(n)}}, \quad a \neq 0, \quad x^{(n)}, x^{(n+1)}, a \in \mathbb{C}, \quad n \in \mathbb{Z} \quad (2)$$

$$x^{(0)} \rightarrow x^{(1)} = \frac{a}{x^{(0)}} \rightarrow x^{(2)} = \frac{a}{\frac{a}{x^{(0)}}} = x^{(0)} \quad (3)$$

2 次元 5 周期再帰方程式の例

$$x^{(n+1)} = \frac{1+x^{(n)}}{y^{(n)}}, \quad y^{(n+1)} = x^{(n)}, \quad x^{(n)}, y^{(n)}, x^{(n+1)}, y^{(n+1)} \in \mathbb{C}, \quad n \in \mathbb{Z} \quad (4)$$

$$\begin{aligned} (x^{(0)}, y^{(0)}) &\rightarrow (x^{(1)}, y^{(1)}) = \left(\frac{1+x^{(0)}}{y^{(0)}}, x^{(0)} \right) \rightarrow (x^{(2)}, y^{(2)}) = \left(\frac{1+x^{(0)}+y^{(0)}}{x^{(0)}y^{(0)}}, \frac{1+x^{(0)}}{y^{(0)}} \right) \rightarrow \\ &\rightarrow (x^{(3)}, y^{(3)}) = \left(\frac{1+y^{(0)}}{x^{(0)}}, \frac{1+x^{(0)}+y^{(0)}}{x^{(0)}y^{(0)}} \right) \rightarrow (x^{(4)}, y^{(4)}) = \left(y^{(0)}, \frac{1+y^{(0)}}{x^{(0)}} \right) \rightarrow \\ &\rightarrow (x^{(5)}, y^{(5)}) = (x^{(0)}, y^{(0)}) \end{aligned} \quad (5)$$

*¹ 本発表では簡単な為、PRE として有理写像力学系の形のものを考えているが、本発表の議論は一般の漸化式、即ち、一般の差分方程式の形の PRE について成り立つ。

PRE は任意の初期点に対し、その軌道が解っている系であり、可積分系分野において重要な研究対象として期待されていた。しかし、PRE の例は比較的最近まで [1, 2, 3, 4] など与えられた低い次元のものしか知られておらず、PRE についての研究はあまり盛り上がっていなかった。

そんな中 [5] において不変周期点代数多様体 (Invariant Variety of Periodic Points; IVPP) [6][7][8] を持つ写像力学系を用いて多くの高次元高周期 PRE が発見された。IVPP とは、不変量を持つ写像力学系に対し、その周期点集合が不変量一定面に一致する様なもので、PRE は写像力学系を IVPP 上に制限することによって得ることができる：

IVPP を持つ写像力学系の例

写像 (2 次元 Möbius 写像)

$$x^{(n+1)} = x^{(n)} \frac{1 - y^{(n)}}{1 - x^{(n)}}, y^{(n+1)} = y^{(n)} \frac{1 - x^{(n)}}{1 - y^{(n)}}, \quad x^{(n)}, y^{(n)}, x^{(n+1)}, y^{(n+1)} \in \mathbb{C}, n \in \mathbb{Z} \quad (6)$$

不変量

$$x^{(n+1)}y^{(n+1)} = x^{(n)}y^{(n)} = \dots = x^{(0)}y^{(0)} =: r(x^{(0)}, y^{(0)}) \quad (7)$$

3 周期 IVPP

$$\begin{aligned} 3 \text{ 周期点集合} &= \left\{ (x^{(0)}, y^{(0)}) \in \mathbb{C} \mid (x^{(3)}(x^{(0)}, y^{(0)}), y^{(3)}(x^{(0)}, y^{(0)})) = (x^{(0)}, y^{(0)}) \right\} \\ &= \left\{ (x^{(0)}, y^{(0)}) \in \mathbb{C} \mid r(x^{(0)}, y^{(0)}) + 3 = 0 \right\} \end{aligned} \quad (8)$$

3 周期再帰方程式

$$x^{(n+1)} = \frac{3 + x^{(n)}}{1 - x^{(n)}}, \quad x^{(n)}, x^{(n+1)} \in \mathbb{C}, \quad n \in \mathbb{Z} \quad (9)$$

$$x^{(0)} \rightarrow x^{(1)} = \frac{3 + x^{(0)}}{1 - x^{(0)}} \rightarrow x^{(2)} = \frac{-3 + x^{(0)}}{1 - x^{(0)}} \rightarrow x^{(3)} = x^{(0)} \quad (10)$$

本発表では高次元 PRE を生成するためのアルゴリズムを紹介したい。その為に関連する先行研究 [9] について簡単に紹介する。上記例にあるように PRE の周期性は“シンボリックな計算”によって得られることが解る。即ち、上記では変数として \mathbb{C} を採用したが、四則演算^{*2} さえ出来れば、その周期性が担保されることが解る。この性質に注目し、[9] では PRE の複素変数 ($x \in \mathbb{C}$) を 2 倍個の実変数を用いて陽に複素化 ($x + iy, x, y \in \mathbb{R}$) し、改めて複素変数 ($x, y \in \mathbb{C}$) と見なすことで 2 倍次元の PRE を生成する方法が提案された：

^{*2} 但し、冪零元などがあるとその限りではないので、一般に“体であれば”と言うべきだろう。

1 次元 2 周期再帰方程式の 2 倍次元化の例

$$\begin{aligned} x^{(n+1)} = \frac{1}{x^{(n)}} &\Rightarrow x^{(n+1)} + \sqrt{-1}y^{(n+1)} = \frac{1}{x^{(n)} + \sqrt{-1}y^{(n)}} \\ &\Rightarrow x^{(n+1)} = \frac{x^{(n)}}{(x^{(n)})^2 + (y^{(n)})^2}, \quad y^{(n+1)} = \frac{-y^{(n)}}{(x^{(n)})^2 + (y^{(n)})^2} \end{aligned} \quad (11)$$

本発表では [9] の結果を任意の “体の拡大” の場合に拡張し (任意個の) 径数を持つ (任意次元の) 高次元 PRE の生成について紹介する.

2 主張

[9] で本質的だったのは PRE が “シンボリックな周期性” を持つことと, 変数が棲む “体を拡大” *3 してもシンボリックな周期性が保たれることであった. 従って元々の PRE の変数の棲む体 \mathbb{K} を拡大する事で拡大次数倍次元の高次元 PRE が得られることが予想される. ここではそのアイディアの概略について述べる:

F を d 次元写像*4

$$F : (x_1, \dots, x_d) \mapsto (X_1, \dots, X_d), \quad x_i, X_i \in \mathbb{K}, \quad i = 1, \dots, d$$

とする. このとき “拡大写像” $A[2]$ *5

$$A[2]_i : x_i \mapsto x_i + \sqrt{\alpha}x_{d+i}, \quad i = 1, \dots, d \quad (12)$$

を定義する. この写像を用いることで F の “拡大写像” $F[1] : \mathbb{K}^{2d} \rightarrow \mathbb{K}^{2d}$ は

$$F[2] : (x_1, \dots, x_d, x_{d+1}, \dots, x_{2d}) \mapsto (X_1, \dots, X_d, X_{d+1}, \dots, X_{2d}) \quad (13)$$

で与えられる. 但し

$$X_i + \sqrt{\alpha}X_{d+i} = [F(A[2]_1(x_1), \dots, A[2]_d(x_d))]_i, \quad i = 1, \dots, d \quad (14)$$

である. 主張は F が PRE であるとき, 拡大写像 $F[2]$ が PRE となることであるが自明であるので証明は省略する.

3 例

3.1 2 周期 PRE

2 周期 PRE $X = \frac{1}{x}$ を例に幾つかの高次元化を紹介する:

*3 [9] では実質 \mathbb{R} 上の写像を \mathbb{C} 上の写像へ “拡大” し高次元化したことになっている.

*4 以降は簡単の為 $\mathbf{x}^{(n)} = \mathbf{x}, \mathbf{x}^{(n+1)} = \mathbf{X}$ と書くことにする.

*5 ここでは簡単の為, 2 次拡大を例に説明する.

- 2次拡大 ($\mathbb{K} \Rightarrow \mathbb{K}(\sqrt{\alpha})$):

$$X + \sqrt{\alpha}Y = \frac{1}{x + \sqrt{\alpha}y} \quad (15)$$

より

$$X = \frac{x}{x^2 - \alpha y^2}, Y = \frac{-y}{x^2 - \alpha y^2} \quad (16)$$

- 3次拡大 ($\mathbb{K} \Rightarrow \mathbb{K}(\sqrt[3]{\alpha})$):

$$X + \sqrt[3]{\alpha}Y + \sqrt[3]{\alpha^2}Z = \frac{1}{x + \sqrt[3]{\alpha}y + \sqrt[3]{\alpha^2}z} \quad (17)$$

より

$$X = \frac{x^2 - \alpha yz}{R}, Y = \frac{\alpha z^2 - xy}{R}, Z = \frac{y^2 - xz}{R} \quad (18)$$

ここで

$$R = x^3 + \alpha y^3 + \alpha^2 z^3 - 3\alpha xyz \quad (19)$$

- 4次拡大 ($\mathbb{K} \Rightarrow \mathbb{K}(\sqrt{\alpha}, \sqrt{\beta})$):

$$X + \sqrt{\alpha}Y + \sqrt{\beta}Z + \sqrt{\alpha\beta}W = \frac{1}{x + \sqrt{\alpha}y + \sqrt{\beta}z + \sqrt{\alpha\beta}w} \quad (20)$$

より

$$X = \frac{Ax - 2\alpha\beta Bw}{R}, Y = -\frac{Ay - 2\beta Bz}{R}, Z = -\frac{Az - 2\alpha By}{R}, W = \frac{Aw - 2Bx}{R} \quad (21)$$

ここで

$$A = x^2 - \alpha y^2 - \beta z^2 + \alpha\beta w^2, B = xw - yz, R = A^2 - 4\alpha\beta B^2 \quad (22)$$

3.2 5周期 PRE

5周期 PRE $X = \frac{1+x}{y}, Y = x$ を例に高次元化を紹介する:

- 3次拡大 ($\mathbb{K} \Rightarrow \mathbb{K}(\sqrt[3]{\alpha})$):

$$\begin{aligned} X &= \frac{y^2(1+x) + \alpha(-uv - zyv - wyu - xuv + zu^2) + \alpha^2 wv^2}{R} \\ Z &= -\frac{y(-u + yz - xu) + \alpha(v^2 - wyv + xv^2 - zuv + wu^2)}{R} \\ W &= \frac{xu^2 - zyu - xyv + wy^2 + u^2 - yv + \alpha(zv^2 - wuv)}{R} \\ Y &= x, U = z, V = w, \end{aligned} \quad (23)$$

ここで

$$R = y^3 + \alpha u^3 + \alpha^2 v^3 - 3\beta yuv$$

4 まとめ

本発表では“体の拡大”による高次元 PRE の生成について紹介した. 本発表の結果を*⁶ 用いれば“体の拡大”によって径数*⁷ を持つ高次元 PRE を生成することができる.

また, 紙面の関係で紹介できなかったが, IVPP を持つ写像力学系について同様の操作を行うことで, 径数を持つ高次元写像力学系, 及び, 高次元 IVPP を生成することができるが, また別な機会に紹介したい.

参考文献

- [1] R. L. Graham, D. E. Knuth and O. Patashnik, *Concrete Mathematics* (Addison-Wesley), 1994.
- [2] R. Hirota and H. Yahagi, *J. Phys. Soc. Jpn.*, **71**, 2867, 2002.
- [3] 広田良吾, 高橋大輔, “差分と超離散”, 共立出版, 2003.
- [4] A. Cima, A. Gasull, and V. Manósa, *J. Difference Equations and Appl.*, **12**, 697 UTF2013716, 2006.
- [5] S. Saito and N. Saitoh, *J. Phys. A: Math. Theor.*, **40**, 12775-12787, 2007.
- [6] S. Saito and N. Saitoh, *J. Phys. Soc. Jpn.*, **76** No.2 p.024006, 2007.
- [7] S. Saito and N. Saitoh *J. Math. Phys.*, **51** 063501, 2010.
- [8] S. Saito and N. Saitoh, “Invariant varieties of periodic points” in *Mathematical Physics Research Developments*, 2008 Nova Science Publishers, Inc., Capt.3 pp 85-139, 2008.
- [9] T. Yumibayashi, *J. Difference Equations and Appl.*, , 2017.

*⁶ 必要に応じ繰り返し.

*⁷ 例で与えた $\sqrt{\alpha}$ など与えられる α など.